

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【岸町小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図ることができた。しかし、国語「我が国の言語文化に関する事項」及び理科「地球を柱とする領域」については、定着の度合いに差が見られた。SSDBの管理体制が定着したため、今後はそのデータをどのように活用して、より個別最適化された学習に生かすか、研修を通して教職員で検討することが大切であると考ええる。
思考・判断・表現	R6年度さいたま市学習状況調査「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問項目において、目標を達成することはできたが、小5に関しては市の平均より若干下回っている。また、資料や実験結果を分析したり、文章の移り変わりや段落相互の関係性を捉えたりする力に課題が見られることから、自分の考えを表す時間を授業で多く取り入れることが大切であると考ええる。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】算数・理科において定着の度合いに差が見られた。国語の「書くこと」に関する問題の正答率がやや低い。 【指導上の課題】SSDB等を活用した、個別最適な学びについての理解が深まっていない児童が自分の思いや考えを書き表す機会が減ってきている。	⇒ 「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。【毎日実施】SSDBを活用し、児童一人ひとりの学習状況や課題について把握し、指導に生かす。【毎日実施】
思考・判断・表現	【学習上の課題】算数の「変化と割合」に関する問題に対する正答率が低い。問題の場面や題意を捉えていない児童が多い。 【指導上の課題】課題発見能力を育成する授業が不十分である。	⇒ 問題・課題に対して、自分がどのように学習に取り組んだのか振り返りを書いて確かめることができるようにする。 【R6さいたま市学習状況調査「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③「ドリルパーク」「スタディサプリ」等の学習支援ソフトを活用することで、既習内容を定着させることができた。SSDBでは、おはようメーターを毎日確実に実施することで、「気持ち」「就寝時間」の項目において肯定的な回答の割合が徐々に向上した。
思考・判断・表現	B	R6年度さいたま市学習状況調査「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、小5が91.2%、小6が95.1%であった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の情報の扱い方に関する問題に課題が見られた。解答類型を見ると、中心となる言葉と関係する言葉を捉え切れていない児童がいると考えられる。情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解するための学習活動を多く取り入れることが大切である。 算数の除数が小数である場合の除法の計算についての問題に課題が見られた。解答類型を見ると、計算の方法について、なぜその方法で答えが求められるのか、理解しきれていない児童がいると考えられる。
思考・判断・表現	国語の目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られた。事実と感想、意見とを区別して書くことなどとして、書き表し方を工夫する学習活動を継続的に取り入れることが大切である。 算数の球の直径の長さや立方体の一面の長さの関係性を捉え、立方体の体積を求めることに課題が見られた。解答類型を見ると、体積を求める問題に対して、面積の公式を用いて答えを求める児童が一定数いた。知識というよりも、題意を捉え切れていないことが原因であると考えられる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の漢字を文中で正しく使うことに課題が見られた。前年度に習った漢字を覚えていない児童が一定数いた。また、文の中の修飾と被修飾の関係など、文の構成についての理解にも課題が見られた。教科を問わず文章を書く活動を多く取り入れることと、既習の漢字は積極的に使うよう継続的に指導することが必要であると考えられる。
思考・判断・表現	国語の登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基にとらえながら読むことについて課題が見られた。朝読書や図書時間等を活用して、活字を読む習慣をつけさせるとともに、登場人物や段落相互の関係性について、図や表に表す学習活動を積極的に取り入れることが必要であると考えられる。 理科の「地球」を柱とする領域に課題が見られた。知識を基に、事象について、なぜそうなるのか順序立てて考える学習活動を多く取り入れる必要があると考えられる。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	授業のまとめなどで、「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図ることができた。 SSDBについては、取組に学級によって差が見られるため、管理体制を確立し、全ての学級で着実に実施できるようにする。	SSDBのチェック体制を確立させる。【通年】
思考・判断・表現	B	振り返りの時間は、教科等によらず実施することが定着しつつある。また、タブレット等のICT機器を活用することにより、児童どうしで、振り返りを共有することができ、学力向上に繋がった。	変更なし。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)